

magazine kobekko june 1967 no. 74

郷土を愛する人々の雑誌

神戸っ子



6

rkhoisa

神戸っ子 昭和四十年六月二十日第三種郵便物認可 昭和四十二年六月一日印刷 通巻七十四号 昭和四十二年六月一日発行 毎月一回

選びぬかれた

ミキモトパールだけが生みだせる

優雅の極致

まさに宝石の女王です

6月は真珠の月

真珠の代名詞

ミキモトパールの

気品あふれる装身具を

お選びください



御木本真珠店

神戸店＝三ノ宮＝神戸国際会館

TEL 22-0062

大阪支店＝堂島＝新大ビル

TEL 363-0247

京都＝ミキモトパール京都(新門前通り)

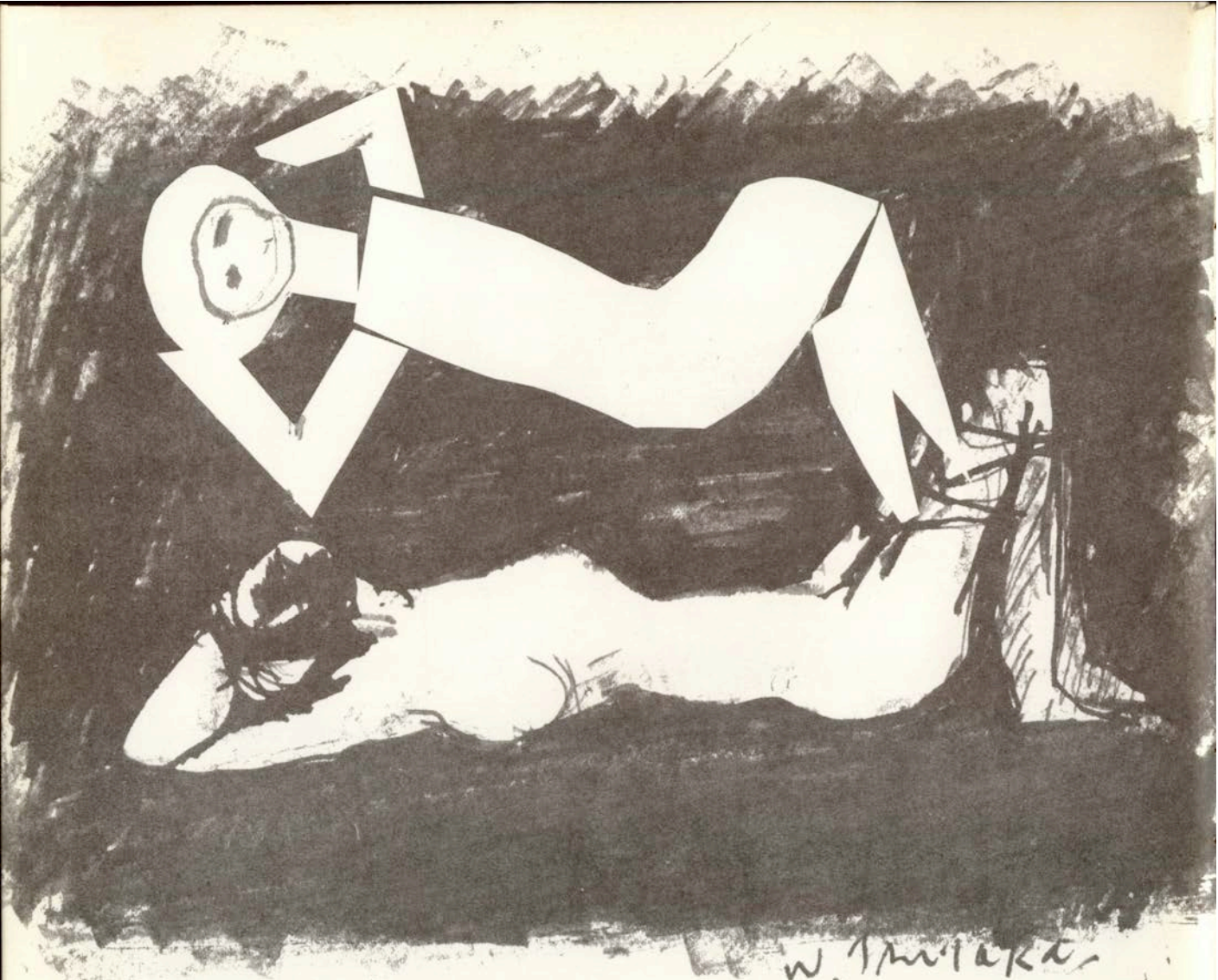
TEL 54-8171

都ホテル・京都ホテル・京都国際ホテル

大阪＝阪神・高島屋・松坂屋

●本店＝東京＝銀座四丁目

●価格やデザインについては
みなさまのご希望にそうよう
各種とりそろえてございます



猫 白い猫が 何匹も繁殖した なかには貴婦人のように伶俐な眼をしたのもいた 金の眼
ブルーの眼 黒い猫は 短かい足で胴長の女のようにおしりを振って歩くのもいた
絵・詩——津高和一



舶来服地・特選洋品

ウネ

神戸・元町1丁目

TEL 33-2677

東京・白木屋1階

TEL 211-0511(代表)

ズームアップ

11

三輪信枝（読売テレビ・11PM・カバール）

カメラ・浜岡収

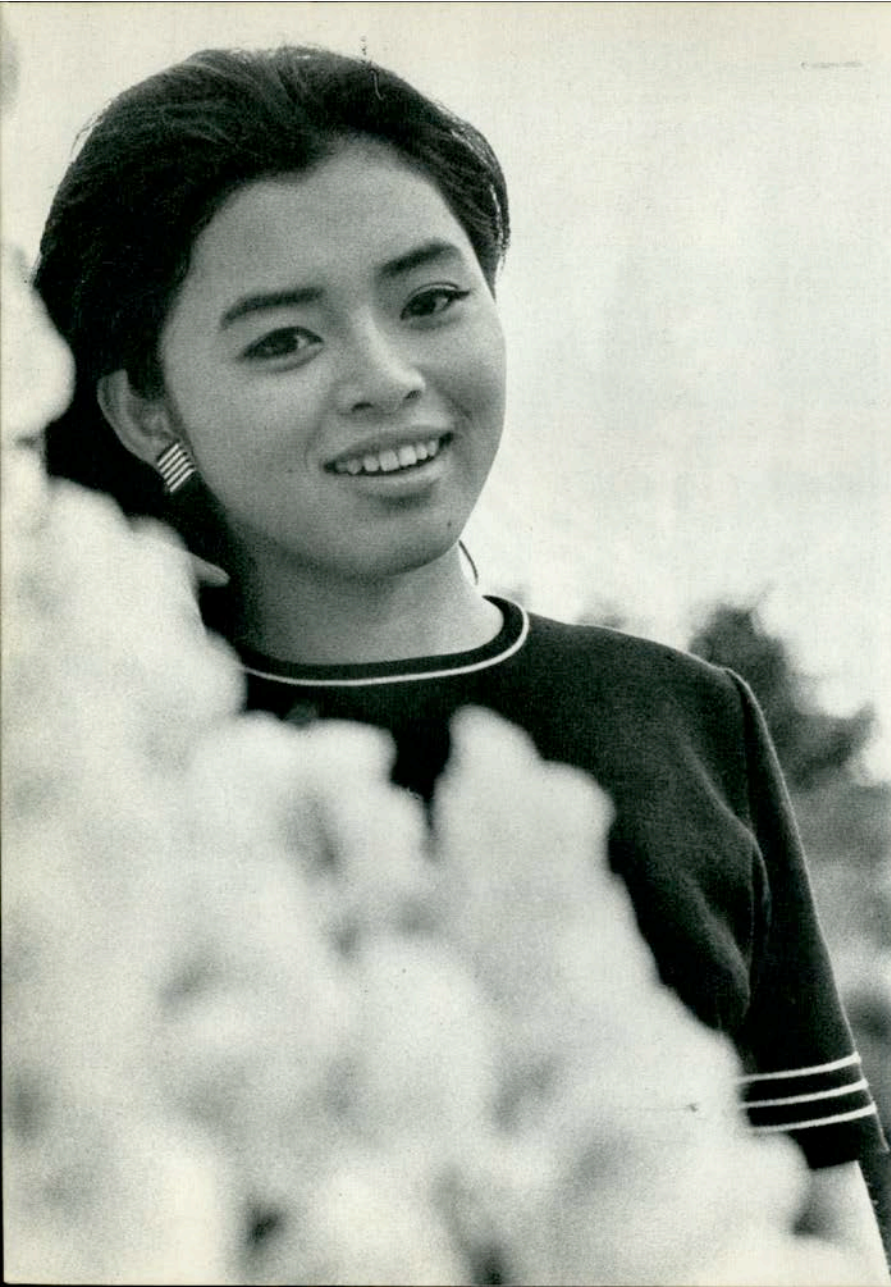
読売TVの人気番組・11PM。で、深夜族には、すっかりおなじみの三輪信枝さん。昨秋11月よりレギュラーとして登場。ほかの二人のカバールとともに番組に花をそえ、スムーズに進行させるアイドルとして活躍している。その美しいフォルムと敏捷な動きは、可憐そのものの。「お仕事はつらいこともあるけど、とても楽しい」。そうで、最近では、藤本義一氏とのコマーシャルも板につき、アドリブでうまくこなしている。

火、木曜日はスタジオへ。それに、彼女にはもう一つの仕事、お茶漬の店「宮城」の経営もある。「夜の仕事ばかりで……」といたずらっぽく笑う。一人っ子の彼女は、明るく素朴で、気取らない性格だ。ツツジの咲き乱れる中を、かけまわり、藤標にとびつく彼女。そんな茶目っ気の中にも、ちよつぱリアルカイックな風情が漂う。

昭和二十年、シャンハイの生まれ。山手女子短大家政科卒。

現在の最大の悩みは、「やせること」。「これからも、彼女の持味を生かしながら、一步一步着実に歩んではいいものだ」。

（相楽園にて）



確信をもってタジマの目を選んだ
世界の宝石の名品!



タジマの目 0.67ct タイヤ72 0.78ct
WG720ニキ止兼用
タジマの目 0.21ct タイヤ40 0.98ct
WG720ニキ止兼用

*** 宝石店

Tajima

元町2丁目(山側)TEL 0387-2552
タジマの特典/当店でお買上げのダイヤ指輪は
販売価格で引取り交換をお約束しております

ズームアップ

12

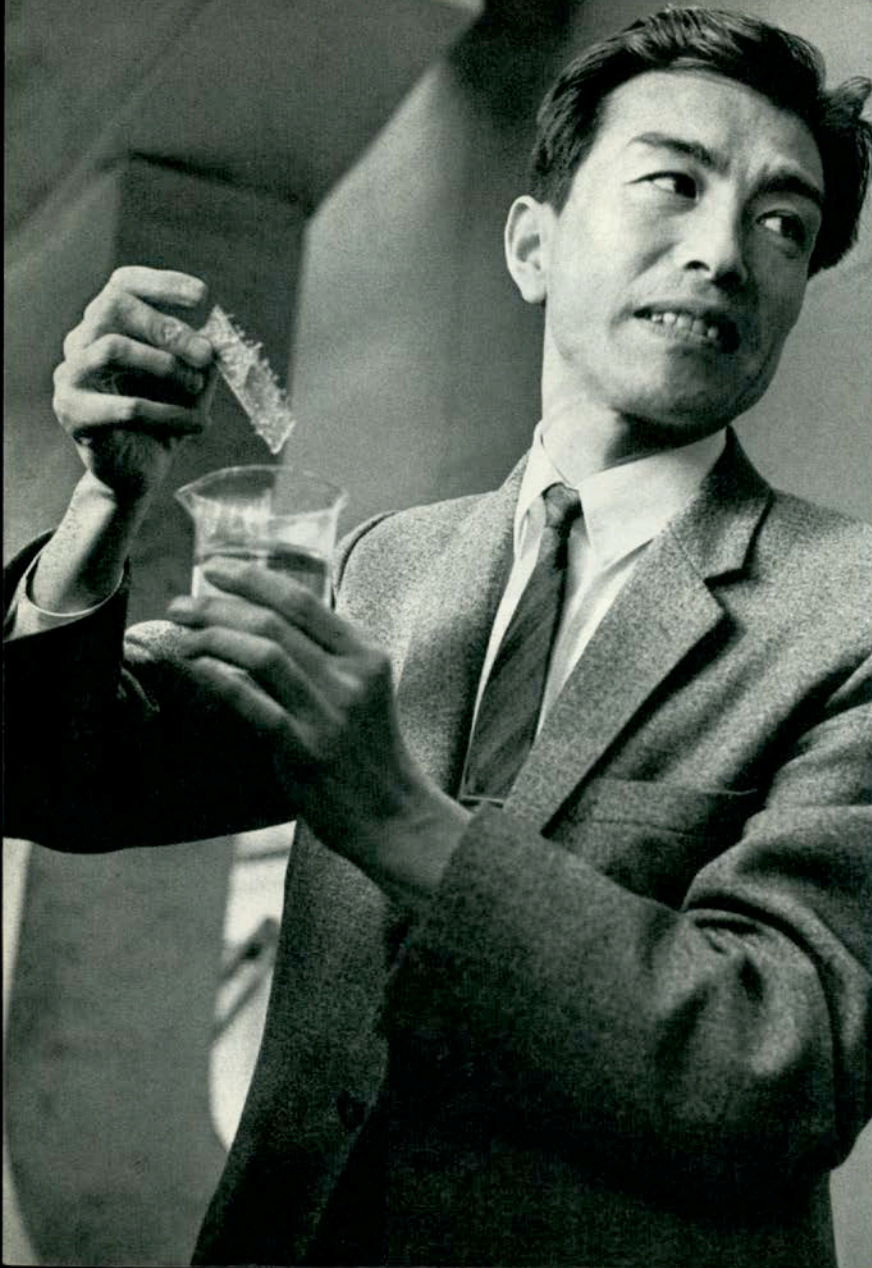
吉田啓正（神戸市立須磨水族館・飼育係長）

カメラ・浜岡収

神戸市立須磨水族館が10年を迎える。10周年にふさわしい嬉しいニュースは、開館以来飼育係に勤務する吉田啓正氏（40）が、4月18日に水産学博士になられたことだ。

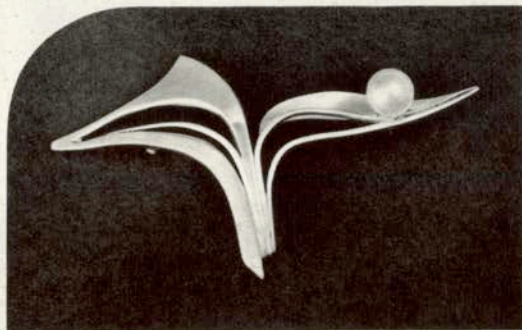
お寺に生まれた吉田さんは、熱帯魚の好きな叔父さんに魚をもらってからやみつきになった。駒沢大学3年まで通って兵隊にゆき、生死をさまよって帰還したとき、北大の山田幸雄先生にひかれて好きな分類学の道に入ろうと決心される。その頃から海藻の生活に興味を持っていたような今度も水族館の水槽では海藻が成育せず、海藻がないと発育しない魚は飼育できないうえ、海藻のない水槽で飼育できる魚が限定されることに着目。約五年間にわたってアオサ・ヒトエグサ科の海藻15種の一生を研究。論文にまとめて北大に提出して博士の誕生となった。

（神戸は国際的な土地柄なので外国の魚をどんどんいれたいし、神戸に来る外人に日本の魚を見せたい、10年目を機会に建物の立派さよりスタッフの充実した力によって内容と個性のある須磨水族館にしたいですね」と柔和な服が魚を語るときはキラキラ輝やき熱がこもる。マスコミの発達で何でもよく知っている現代っ子にまやかしくはきかないと勉強家らしい弁だった。〈神戸市立須磨水族館にて〉





TASAKI PEARLS



● 6月の海に生まれた自然の輝やきタサキパール

田崎真珠

本店 神戸市葺合区旗塚通6-9

三宮店 神戸新聞会館秀品店内

あなたの真珠はパール・マークのお店で

日本真珠小売店協会加盟店





（神戸市役所南、東遊園地内街頭バラ園で写す）

後列左から
大町かね子、白崎百合子、山口ならあ、田村ふさよ、中西悦子、安田歌子、筑紫新子（会長）、塚本喜代子、藤岡秀一

（神戸市役所南、東遊園地内には、つるバラが咲きほこり、道行く人たちの目を惹きつけている。神戸バラ協会は創立から今年で十五年目、神戸の街を花いっぱい、バラいっばいに、を目的に、市民の手で育てられてきた。会員の見事なばかりのチームワークは今後もさらに充実して、ますます神戸の街をバラの花でうすめてくれることだろう。

カルメンが口にくわえた花は紅のバラ。バラは情熱の花といわれる。遠い昔から文化の発展とともに人間に愛されてきた花、バラはまたおとぎの国の物語に出てくるかわい花である。神戸の街はほかの街にくらべて緑の多い街である。そして数多くの街頭バラ園があちこちにみかけられる。市役所の南、東遊園地内には、つるバラが咲きほこり、道行く人たちの目を惹きつけている。神戸バラ協会は創立から今年で十五年目、神戸の街を花いっぱい、バラいっばいに、を目的に、市民の手で育てられてきた。会員の見事なばかりのチームワークは今後もさらに充実して、ますます神戸の街をバラの花でうすめてくれることだろう。



夏を呼ぶ装いは……

カセットのユニークなデザインで

高級お仕立て・ブレタポルテ
舶来生地・アクセサリー・雑貨

* ジョリー

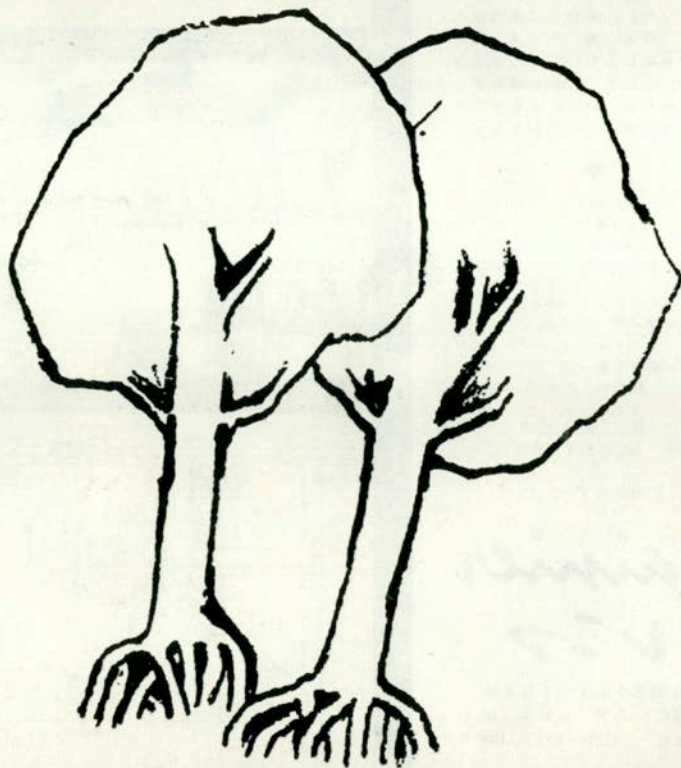
カセット

神戸・三宮・大丸前・市電筋浜側
TEL. 神戸 39-4992



表紙／小磯良平

- 1 Second Cover／津高和一
- 3 ズーム・アップ／撮影＝浜岡収
①三輪信枝 ②吉田啓正
- 7 ある集い／神戸バラ協会
- 11 わたしの意見／山口秀男
- 13 随想三題／お江戸昨今 神戸っ子のひとりごと・松井高男
神戸へ帰りたいなァ・藤本義一
神戸カラー＝東京カラー・永田良一郎
- 17 随想／アラスカへの道＝マウント・コウベ登頂記・宮崎辰雄
随想／「神戸っ子」・横尾忠則
随想／神戸＝東京・古林喜楽
- 27 神戸っ子放談／村上正二郎・柏井健一・岡崎真雄
- 31 経済ポケットジャーナル
- 32 技術ジャーナル／諸岡博康
- 35 バイオニア神戸く6／滝川辯三・有井基
- 41 ある集い＝その足あと／神戸バラ協会
- 42 神戸のアーバンデザイン／水谷顕介＋
神戸のモダンリビング／チームUR
- 44 CINEMA①／淀川長治
- 46 KOBE'S SHIP LOUNGE①／文・玉奥章
- 48 動物園飼育日記③／亀井一成
- 51 Let's Go American Foot Ball ⑥／米田満
- 56 特集 ①Sun＋Summer
- 65 六甲山グルーム五十回忌／カメラルボ
- 68 神戸新景
- 69 Kobe Look／福富芳美
- 72 座談会＝元町のパネルディスカッション
元町の未来図を描いて－
- 83 れんさいマンガ⑩ベッコ／永井文明
- 86 男の気持⑤男と女と／向井修二
- 87 神戸遊戯誌④・バドミントンく1／青木重雄
- 89 神戸うまいもん巡礼⑤／赤尾兜子
- 91 淑女入門⑤実益淑女・鴨居羊子
- 92 随想／森秀人
- 96 INGコーナー
- 97 ポケットジャーナル
- 101 異人館物語第五話
耽溺の詩人モラエス⑤／小山牧子
- 111 連載小説＝兵庫の女く十六回／武田繁太郎
- 118 対話12ヶ月
対話＝安水穂和・カメラ＝鑑方しげを
- 121 銘店抄／赤根和生
カメラ／米田定蔵・赤松慶三郎
レイアウト・カット／港野千穂



MEMBERS CLUB



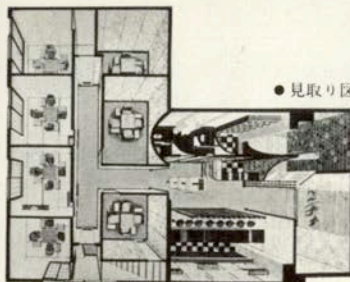
このたび会員制のクラブで会員のみなさまに手軽に使っていただけるハイムードのレンダールームを開きました。ご会合・ご商談はもちろん、麻雀、藝、チェス、カードなどを楽しんでいただける設備を用意いたしました。お客さまの接待に気持ちよくひとときをすごされるよう配慮いたしております。

- 会員＝入会金は個人 ￥10,000
法人の場合(4名) ￥30,000
(月の会金はいただきません)
- 会員の権利＝下記料金により個室
利用できます。
またビジター紹介もできます。
- 営業時間＝平日 5:00pm～11:00pm
土曜 2:00pm～11:00pm
- 料金＝会員借室一室 平日 2時間以内 1人様 1時間につき 200円 以後 1時間増に 1人様 150円。
- 予約＝ご来店の節はお電話をどうぞ。

LENDER ROOMS

Rainier レニア

* 生田区中山手 2丁目 8 9
YMCA 浜側 光ビル 3 階
TEL <39> 1497・1498

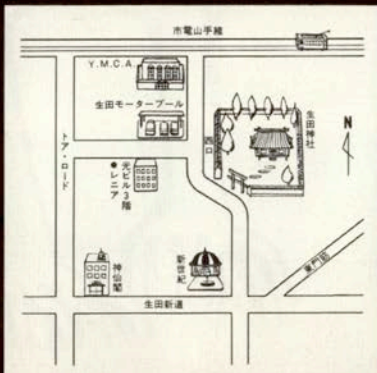


●見取り図

*

新しく誕生した
レンダールームへの
お誘い

*



伝統のないことを
誇にしよう



山口 秀 男

〈朝日新聞神戸支局長〉

何ごともマヒするということは恐ろしいことだ。知らない、ということも強いことだ。

ゲタばきで坂道を下っていけば、いつでも気楽に泳げた時代、自動車の警笛にオドオドしなくても、大を連れて山手の坂道を散歩する楽しみを知る人は少なくなった。知ってはいても、大阪の海もなくなり、東京の空が汚れ、周囲がどこもそんなものだから「都会の暮しなんてまあこんなものかな」と思いこんでしまおう。あきらめてしまおう。

あきらめるだけなら、まだかわいげがある。なんでもかんでも、すぐ真似をしたがるというのも困ったものだからをやらんとバスに乗り遅れると信じている手ぐいがあるから度し難い。ミニスカートの流行くらいですめば愛きょうだが、これがやみくもに工場誘致とか不良住宅街の野放しといったことになると、ことは深刻になるのだ。といったような発想から、私はときにこんな暴論を相手かまわずぶっかけてみた。私。

元町や三ノ宮の商店街。あれはいつたいいんだ。アーケードで年がら年中青空を斜断して、うす汚いサクラのホンコンフラワーを並べ立てて、まるで田舎町の商店街ではないか。味が無い。太陽の町が泣くよ。山も山で、ゴテゴテ厚化粧するばかりだ。だいたいお節介がすぎ。悪女の深情けなんだ。

そして「神戸文化不毛論」で情けない顔をする人にはこういつてやる。

町に伝統がないこと、植民地であること。それを誇りにするのだ。お祭りが無いことだって、そんな仰々しいものがないことを自慢にできないか。ありふれた美術館や劇場をいたずらに欲しがると、この恵まれた緑の背山を利用した、野外劇場。いつでも画家のタマゴが作品を展示しているようなほほえましい「街頭画廊」といったもの。つまり町全体をひとつの芸術作品にするというのはどうだろう。

大衆化というのは結構なことなのだが、それはなにも個性を捨ててよいということにはならないはずなのである。

永田良介商店

大丸前 TEL { ⁽³⁹⁾ 3 7 3 7
 } 3 7 3 9



をきとの
子菓ツの
憩いと
ひとる
飾イ
ド続
伝味
風

バウム・クーヘン
ビスケット
キングケーキ
フランクフルター・クランツ



Fahrenheit's

1-846

本 店 神戸三宮生田神社前
T E L (33) 1694・8064
三 宮 店 神戸大丸前市電筋
T E L (33) 2101 (39) 3808
さんちか店 三宮地下街スイーツタウン
T E L (39) 3 5 3 9

東京/銀座店・渋谷店 その他全国有名百貨店

随想三題

絵／津高和一



東京―神戸

お江戸昨今 神戸っ子の ひとりごと

松井高男

△神戸新聞東京支社長△

ユトリロ展が開かれ、ソフト・ムードの美濃部さんが浮動票をかっさらって都知事に、そしてモスクワ・フィルが訪れ、通産省では資本の自由化をひかえ目下各業界の意見をとりまとめ中。そうしたなかで女性票の重要さを知ってか知らずか、選映きの八重桜満開の新宿御苑で佐藤栄作さん主催の「夫人同伴観桜会」が開かれ、やがてやって来るベルギー二十世紀バレエ団のうわさとも、うすら寒

くはこりつばい東京の春は去っていった。

日本一を誇る霞ヶ関の超高層三井ビルが、三十六階最後の鉄骨を組み上げたまではよかったが、羽田行きモノレールの始発点、浜松町駅西口に、それより二階高い三十八階建ての貿易・交通センタービルが名乗りをあげ、これぞ日本一というにいたっては、アホらしくていかん。ネコのひたいほどの三角の空き地にも三角のビルがそびえ建つという世はまさに超？高層化時代。一見豪華風で庶民には無縁のマンション、コーポのたぐいもどんどん建つが、依然都民の42%が住宅に困窮している。一人当たり1.5畳の狭小過密居住世帯は、全国の40%が東京に集中。同様、世帯の都内に占める比率は77%。自民党作成のパンフレット「21世紀の大東京」で「勤労者平均

所帯で一カ月の消費水準三十五万円以上住宅三十坪、一人一寝室、駐車場つき高層アパート」とうたい上げられても実感とは遠すぎる。

そんな現状のなかで都心をさること〇キロ、横浜との間にできたニュータウンの地名が公募された。どんな名がつくかと思っていたら、一等当選が「つくし野」とはうれしかった。まさに、排気ガスと騒音にしいたげられた都民の願望、希求のあらわれ、むしろ泣かせるね。

オリンピック以来東京の道路はよくなりましたねと人はいう。高速道路が空中に弧を描いている部分だけをみてのゆきずりの感想。ところが13メートル以上の幅をもつ道路は全体のわずか30%、5メートル以上が23%と道路率はきわめて悪い。九人に一台、月々一万台のわりでふえていくクルマの洪水のなかで事故は続出、町中では運転手と乗客が交互に腹を立てアクビをしながらローカセコでよたついている有様だ。青楓、京浜東北、山手、中央各線では部分的だが混雑度80%というから通勤客は窓から半分以上体かはみ出したまま運ばれている形である。この通勤客の80%が疲労感を訴えており、そのせいかどうか知らぬが、たそかれ以後の乗客は関西にくら

べて男も女もいかにもしおたれて元気がない。早死にするよなあ、東京はノと、バケモノ都市の典型のような東京を批判し、悪口をいうのは至極簡単だ。だが、ダブルの上着のポケットに片手を突っ込み、ずっけズボン議員さんスタイル、オジンパッチ・スタイルの原宿族、なにかもひっくりかえってゴロゴロ大きな音を立てながら転がっているようなカオス都市、東京のみのもつたくましいエネルギーを否定するわけにはいかない。よくても悪くてもそれはそのまま日本の象徴だ。

ともあれ、たまに帰って六甲台からながめおろす神戸の町の灯ほど、心をなごませてくれるものはない。たとえ東京と変らぬ生活がそこで営まれていようとも、まだまだ神戸の空気はうま、人間らしい生活が可能である。

神戸はほんまにええとこやノしみじみと……。

東京―神戸

神戸へ 帰りたいなア

藤本義一
（サントリー・コピーライター）

東京へきて二年になる。しかしこちらでもいいなと思ったことは、ついこの間の一日しかない。これ

はみなさんご存じのことだ。

私の心はいつも神戸にある。何がそんなに私をひきつけ続けてきたのか、考えてみた。陸軍にいた二年を引いても三十数年を暮らした街だといえばそれまでだが、永年いたただけではない。もし私がこれから東京に三十年住みつづけたとしても、私は東京を好きにはなれないはずだ。こんなバカでかい街は真つ平ごめん。第一この街でこれから三十年も生きのびられるものか。ここはまったく、人間の住む場所ではない。

神戸。これこそわが街。山へ登るのに家から歩いていける。海で泳ぐには市電の二十円でこと足りる。東京なら思いも及ばぬことだ。つぎに肉がうまい。魚がうまい。酒がうまい。神戸にいと、まずい肉というのがあるはずはない。まあ東京へきて食べてみな。こちらじゃ馬の肉のほうがマシなくらいだ。だから神戸から母や妹がくるときの土産は牛肉に決めさせてもらっている。

私は月に一度くらい神戸へ帰っているが、そのときは魚を持って帰る。その夜、妻も二人の息子もご気嫌だ。何しろ、こちらへきて魚を喰った途端、一家四人がジンマシンで体をボリボリかいた。一晩眠れなかった。活きのいいの

はみんな高級料亭へ流れるがそれでさえ、友人と築地の一流へ招待された竹中郁さん。ひとめ見ただけで箸を置いた。おいしそうだとパクツいた京大の著名教授。その夜はホテルでうなつたという。酒のことは書かない。しかしこれも、地元でその酒を呑める諸君は幸せだよ。知ってる人は知ってるんだ。

それからついでに「うどん」。

私はこれがまた好きなのに、こちらのときたら、汁は雑布のしぼり汁。うどんまでオレの肌みたいにどす黒い。まったくやり切れない、喰うものはこれくらいにして、

風呂がまた関東は傑作。相対りつばな構えの家でも洗い場にボインと風呂桶を置いただけ。女性がこれをまたいで湯舟へ入るとこなか、まったく泣きたくなる。はずかしいでエ。そのうえ焚き口が風呂場のなかにあるのだから、これじゃハダカでガス中毒死もするわいな。神戸にいたんでは全く理解のできんことだ。「神戸いいとこ」を書くのなら、百枚書いても書きたらないのに、私に許されたのは三枚だから門口を通つただけ。東京のものの値段がこんなに高いというのを書いたら、奥さん連中、亭主の転勤にハントするかもわからんな。とにかく東京

はイヤな街。私は神戸に住んで、大阪へ勤めて、休みには京都や奈良へ行っていたら、こんな入ささやかなぜいたくVはないと思っている。

それに私の場合、神戸とその近郊で友人に恵まれます。これは私にとっては何よりの支えなので、機会をつかんでどうしても神戸へ帰りたいと願っている。

こんなに神戸が好きなので、あえて苦言をひとこと。私は横浜に住んでいるが、元町・センター街は横浜の元町のほうがひょっとするとユニかもしれん。山下町「中華街」のズラリと数十軒並んだ中国料理店は、一カ所にまとまっているので神戸とダンチ。昔の神戸の南京町がなつかしい。

最後にいちばんバカくさいのが△みなどの祭V。まあ横浜の△みなど祭Vを見にきてみいな。胸がスカッとするワ。今年は神戸もがんばるらしいけど。

神戸―東京

神戸カラー

東京カラー

永田良一郎

△永田良介商店社長△

ある画家が、六甲の山の夕暮れの色をしきりに愛でていた。その幾通りもの色に変化していく様子が、何とも印象に強く、今でもその色をキャンバスに再現することができるというのである。その話を聞いて、神戸に住んでいる私もなるほどと大きくうなづいたのであったが、神戸はこうした色にひじょうに恵まれた都市と言えるのではないだろうか。

商用でよく東京に出掛ける。そのたびに感じることは、東京がカラーに乏しいということである。東京に多く見られる色といえば、黒、紺がほとんど。それに反して神戸では、街はカラーにあふれていて、見る人をも楽しませる。街行く人の服装もカラフルで、建物もモダンなものが多い。神戸はそんな色のビッターする街なのである。

東京の人は田舎ものが多く、流行にはすぐとびつくが、それをうまく自分のものにすることが下手だ。そこでいきおい、服装においても画一化されたものにならざるをえない。○○族という如きものはその典型的なものである。神戸の街には、流行をうまく自分のものにしたり、あまり流行にとらわれないセンスのいい服装をした人が多いように思う。

こうした神戸と東京のカラーの違いというのは、何事をも受け入れ消化しようとするミナト神戸と官庁中心の東京との違いによるのではないか。したがって外国人が一番住みやすいのも神戸だという第一、街を歩いていても誰も振り返って見ない。外国人も、エトランゼというより日本人と同じ意識で歩ける。そんなところにもコスモポリタン神戸の面目躍如たるものがある。

商売面にも大きな差異が認められる。東京の商売は「売ってあげます」式。大阪のそれは「買ってもらいます」式。これに比べて神戸の商売は「お気に召す品を買って下さい」式ということになる。昔から、神戸の商売には団結力がなく、ゴーイング・マイ・ウェイ型のものが多かった。最近はまだ緩和されつつあるが……。

いろいろな面で、神戸と東京の違いはあるが、東京の人が神戸を何か憧れに似た気持ちをもってながめているのは事実である。すぐ近くに神戸とよく比較される横浜があるが、すぐ近くの横浜よりも、憧れるにちょうどいい距離にある神戸はそのような想いを寄せるのは当然かもしれない。又それだけものを神戸はもっているといえる。

マロングラッセは ヒロタの銘菓



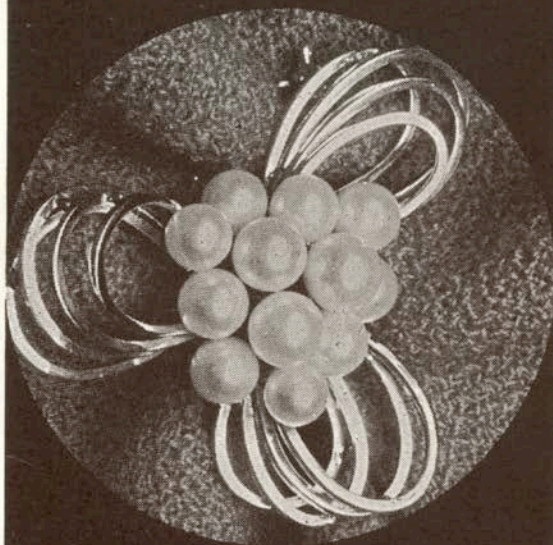
洋菓子の ヒロタ

〈神戸〉元町店・三宮店・さんちか店
秀品店

〈大阪〉梅新店・富国店・ウメダ店
大阪駅東口店・心斎橋店・戎橋店
ナンバ店・天王寺店・天満店・京橋店
守口店・新大阪駅店・淡路店・尼崎店
西尼崎店

Kitamura Pearls

世界の人々に愛される
キタムラパール



北村真珠株式会社

神戸：元町店 TEL ③③ 0072

東京：スキヤ橋店 TEL<571>8032

▲ アラスカへの道

マウント・コウベ登頂記

宮崎 辰雄

★アラスカ・未登峰の登頂に成功

兵庫県山岳連盟が、神戸開港・兵庫県政百年を記念して計画した日米合同アラスカ登山隊の萩原邦一、松本武彦、大野光彦の日本隊員三名は、アメリカ隊のステューリ・ハーブ、エド・ボールトン、ガレン・マックビーの三名とともに、一九六七年四月二十七日午前八時二十分（

日本時間二十八日午前三時二十分）、アラスカ・ボーナ山塊の未登峰（四、四〇二呎）の登頂に成功した。この未登峰はマウント・コウベと命名せられ、世界の地図にその名がとどめられることになるであろう。

つづいて、三十日正午ごろ（日本時間五月一日午前七時ごろ）藤田副隊長、萩原登はん隊長をはじめ十四名全員が、同峰に登頂した。

★日米合同して



キャンプのベースがたそがれ氷河上セルッラ

この計画は、兵庫県山岳連盟が神戸新聞社と共催のもとに、兵庫県政百年、神戸開港百年、アラスカ百年祭および神戸・シアトル都市提携十周年を記念して、日米合同登山隊を編成し、本年四月と五月を期して決行せられたもので、日本隊は私が団長、隊長は兵岳連の津田会長、副隊長は藤田博氏、登はん隊長は萩原邦一氏の総勢十六名、アメリカ隊はシアトルの登山団体ザ・



写真上は輸送基地ノースウェーで犬そりで遊ぶ隊員たち。

右はベースキャンプに到着した私たちを迎える萩原・ハース両隊員。

P19左は吹雪のベースキャンプで作業する隊員たち。



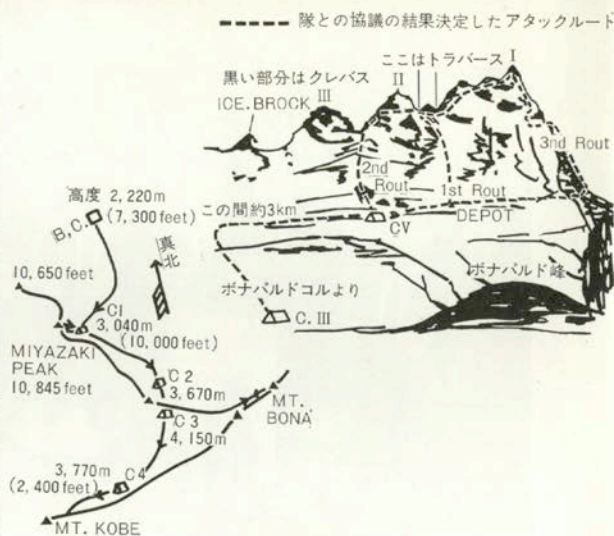
マンティニヤーズのメンバーで、ランダル隊長をはじめ十四名である。

このアラスカ登山は、その準備に長い期間が必要であった。兵庫県山岳連盟では、かねてから海外へ登山遠征隊を送りたいと考えていたが昭和三十八年の夏、シアトルの写真家スプリング氏が日本の山の撮影のため来日した時から日米間で話が進められ、同氏の橋渡しで、神戸の姉妹都市シアトルの山岳団体ザ・マンティニヤーズとの合同登山が計画された。昨年の春になってアラスカ、カナダの国境にまたがるユーコン山岳地帯を対象にして具体的な計画がたてられたが、その後、その北西のアラスカ・ボーナ山塊（主峰ボーナ山は五、〇〇五呎）の未登峰に変更された。シアトルでは、すでに昨年八月この計画が新聞に発表され、その時にはまだ決心していなかった私の団長就任まで報ぜられているのには驚いた。メンバーの選定、資金および装備の調達、現地事情の調査など必要な準備は総て順調に進み、第一次先発隊は萩原登はん隊長を含め三隊員が、三月三日川崎汽船おれこん丸で装備をつんで出発、第二陣は藤田副隊長と大野マネジャヤが三月二十日羽田空港を発ち、本隊は私をはじめ十一名が四月五日空路出発した。

★ロンケ・ロンケ・ウエー

第一次、第二次先発隊はシアトルで合流し、大野マネジャヤ一人を連絡のため同地に残して、藤田副隊長をリーダーとする日本隊員四名は、アメリカ隊のハース氏とともに、装備の輸送とベースキャンプの設営にあたるため三、四〇〇呎の雪と氷と厳寒のアラスカ・ハイウエーを、フォルクスワーゲンのマイクロバスを運転して、六日間の昼夜をわかつた悪戦苦闘の末、三月二十九日輸送基地のノースウェーへ到着した。続いて同氏らは、休む暇なく、チャーターしたセスナ機でラッセル氷河に入り、ベースキャンプの設営に成功した。

私は、シアトル着の後、津田隊長、ベースキャンプか



ら帰来した藤田副隊長などとともに奈良シアトル総領事とランダル・アメリカ隊長の案内で、エバンズ・ワシントン州知事、ブレマン・シアトル市長を公式訪問し、ワシントン州議会下院で演説し、シアトル朝野の歓迎会に出席するなど公式行事をおえて、四月七日、日米合同登山隊を編成して空路アラスカ第二の都市フェアバンクスへ向った。

フェアバンクスでも、空港にバッチャー市長の出迎えを受け、歓迎会、市会での挨拶、ラジオ放送など一通りの行事をすませて、八日午前十一時バスにて四八〇キロの彼方のノースウエーへ向った。

初めて踏むアラスカ・ハイウエーは、見渡す限りの、雪と樺や白樺の広野を、ただ一すじに、いつ果てるともなくのびている。人を見かけると、隊員が『人がいた』と頓狂な声をあげるの、皆で大笑いをした。河も湖も凍って真白く、それに樹木の黒が加わり、天地はただ白と黒のみの、しかも無人の世界である。遙かにも来たるかなとの感慨が胸に湧く。

★氷雪・酷寒・高度・天候との闘い

夕方、長いバス旅行ののち、ノースウエーについて。驚いたことに、とくにベースキャンプに入っていると、思っていた松本、岡本両隊員がバスに走り寄って来た。萩原、ハースと藤田副隊長がベース入りをした翌日から天候が悪くなり、六日間飛行機が飛ばないとのこと。萩原君は氷河の中でどうしているだろうか案じられる。基地の夜は零下十度。

翌九日は晴天。ランダル・アメリカ隊長、松本、藤田重夫両隊員がまず飛び、続いて私と津田隊長がセスナ一機に乗込む。機上よりの眺めは、平地部はどこまでいっても昨日見た通りの白黒の世界だが、山地にかかると、俄然、様相は一変する。陽光にきらめく氷雪の嶮巖たる峰々とその谷あい埋める氷河。雄大なスケールに圧倒される。ポーナ山塊に近ずくと、一きわ雄大なラッセル氷



河が見え、セラックス（氷の塔）やクレバス（氷の割れ目）が機上からはっきり見える。氷河上の遙か彼方に黒点のようなものが見えてきたが、近づくとそのものがベースキャンプであった。機が氷河の雪上に着陸すると、萩原登はん隊長がかけ寄って、だきついて、アメリカ隊員とただ二人、猛吹雪の中で一週間暮した苦しさを涙声で吐きだした。

天候の変化のはげしさを知っていた私と津田隊長は、次のスケジュールがあるので、うしろ髪を引かれる思いで、その日のうちにノースウエーへ帰ったが、果せるかな翌日より飛行機は飛ばず、全隊員がベースキャンプ入りをしたのは十三日になったとのことであった。

ベースキャンプから眺められる山は、マウント・ポーナやマウント・コウベの前山に過ぎないが、アイスホール（氷の滝）がかかり、氷壁と岩肌がそびえ、登はんには相当の困難が予想せられた。しかし私が帰国した後、藤田副隊長の指揮のもと、吹雪と氷点下三十度という酷寒に悩まされ、セラックスやクレバスに道をばまれながらも、また高度に順応できず高山病に倒れた隊員を介抱しながら、先ずマウント・ポーナに登頂し、遂に希望の未登峰マウント・コウベの初登頂に成功した、との報に接することができた。くわしいことは六月上旬の隊員の帰国をまたねば知り得ないが、あらゆる困難に打勝って成功し得たものは、隊員の協力と技術・体力および完べきな準備にあったといえるだろう。

△神戸市助役▽

写真上は、ワシントン州知事エバンズ氏を訪問した登山隊員たち。左から四人目・津田隊長、六人目・宮崎団長、中央・エバンズ知事、知事の右からランダル米国籍隊長、ランダル夫人、奈良シアトル総領事、藤田副隊長。